

【8月・1歳児・高月齢】

ほいくのおまもりプラス

	Aさん(高月齢/男児/活発) (2歳4カ月/4月生まれ)	Bさん(高月齢/女児/活発) (2歳3カ月/5月生まれ)	Cさん(高月齢/男児/静か) (2歳2カ月/6月生まれ)	Dさん(高月齢/女児/静か) (2歳1カ月/7月生まれ)
子どもの姿	1. 排泄の後や食事の前の手洗いで、次の活動に気が向き石けんを使わず手を濡らすだけになってしまう姿があった。 2. 水遊びが好きで、保育者と水をかけ合ったり水面を叩いて大きく水しぶきをあげたりして、ダイナミックに楽しんでいた。 3. 手足口病で一週間ほど欠席していたが、食欲も戻り元気に登園している。	1. 生活の流れがわかり、水遊びの準備や食事前の排せつと手洗いなど、自ら行おうとしていた。 2. 水遊びではペットボトルが気に入り、カップやジョウロを使って水を入れようとしていた。 3. 園では日中布パンツで過ごしており漏らしてしまうことも少ないが、家ではオムツを履きたがるようだった。		
ねらい	1. 排泄の後や食事の前に丁寧に手を洗おうとする 2. 保育者や友だちと、水遊びの楽しさを十分に味わう	1. 簡単な身の回りのことを自分で行おうとする 2. 水の面白さや不思議さを味わう		
内容	1. 保育者と一緒に、石けんを使って丁寧に手洗いをする。 2. 保育者や友だちと一緒に水遊びを楽しむ中で、水の不思議さや面白さに気づく。	1. 大まかな生活の見通しを持ち、身の回りのことを自分でしようとする。 2. さまざまな玩具や道具を使い、水の不思議さや面白さを味わう。		
環境構成 配慮 援助	1. 次の活動を楽しみにする気持ちを受け止めつつ、保育者と一緒に手を洗いながら手順を伝えていく。洗い終わった後は、「きれいになったね」と清潔になった気持ちよさを言葉にして伝えていく。 2. さまざまな素材(氷、色水など)と玩具(ジョウロ、水車、ペットボトルなど)を用意し、水の面白さを感じられるようにする。動と静のバランスを意識して遊びに誘い、集中している時には声をかけすぎず見守る。	1. 水遊びの用意では自分で挑戦する姿を尊重して見守るが、特に水着は着脱が難しいので困っている時はさりげなく援助し、自分でできた達成感を味わえるようにする。見通しを立てられるように「楽しい水遊びが待っているよ」等、次の行動を伝えることで本児の意欲につなげていく。 2. 十分な数の道具や玩具を用意し、水の感触や動きを楽しめるようにする。保育者が一緒に遊ぶ中で道具や玩具の使い方や伝え、本児が水の不思議さや面白さに気づけるようにしていく。		
食事	・食欲旺盛な分あまり噛まずに飲み込むときがあるので、落ち着いて食べられるよう「たくさん噛もうね」と丁寧に伝えていく。 ・器に手を添え忘れて食べにくそうなときは、「器を持つと食べやすいよ」と言葉で伝えて援助していく。	・おしゃべりが楽しく食事が進まないことがあるので、気持ちを受け止めながら「前を見て食べようね」と食事に意識を戻せるようにしていく。 ・暑さからの疲れもあり、皿に食材が少し残っていても食事を終えようとするところがある。「たくさん食べたね、最後に一緒に集めようか」と伝え、きれいに食べ終われるよう援助する。		
家庭の連携	3. さまざまな感染症が流行する時期なので、日々の体調の変化をこまめに伝え合っていく。 ・爪が長くなっていることがあるので、家庭でも日々気にしてもらおうよう丁寧に伝えていく。	3. 日中布パンツで調子良く過ごしている本児の姿を伝え、保護者が今後の見通しと安心感を持てるようにする。 ・何でも自分でやりたがる時期なので、日々の姿や成長を伝え、家庭でも理解し見守ってもらえるようにする。		
評価・反省	1. 保育者が手を添えながら「石けんをつけたらきれいになるね」と、一緒に丁寧な手洗いを確認しながら行った。本児が他児に教えてあげる姿も出てきたので、子ども同士のかかわりも見守っていききたい。 2. 水を見ると興味を持ち、そっと触れたり、冷たさや溶けていく様子をじっくり観察する姿が見られた。暑さが残る内は室内遊びにも取り入れ、引き続き感触を楽しめるようにしたい。	1. 「Bさんがやる」と意欲的に行う姿を認めながら見守った。時折シャツがうまく脱げなかったりズボンを反対に履いたりしていたので、本児に確認してから手伝い直した。今後も本児の自信につながるよう見守っていく。 2. 大小さまざまな大きさのペットボトルを準備し、水を入れたり出したりする中で重さも感じながら楽しんだ。身近な素材で扱いやすい反面破損しやすいので、点検をしながら活用していきたい。		

無料版：2名分
↓
有料版の
"おまもりプラス"
は12名分が
閲覧&DL可能！

子どもの姿の1, 2は『内容/ねらい/環境構成・配慮・援助』、3は『家庭との連携』と連動しています。

敬称と性別表記: LGBTQ+の観点から、『くん』『ちゃん』などを使わず、『さん』で統一しています。ただし、発達段階の観点では性差はあると考えられるため、男児/女児としています。